



令和6年度 研究報告



学びたい気持ちを高め
夢中で取り組む姿を目指した授業づくり
ーキャリア・パスポート「未来へのスケッチ」の活用を通してー
〈1年次/2年計画〉



秋田県立ゆり支援学校



研究主題 学びたい気持ちを高め、夢中になって取り組む姿を目指した授業づくり ーキャリア・パスポート「未来へのスケッチ」の活用を通してー (1年次/2年計画)

研究主題設定の理由

過年度研究の成果等から

令和5年度の研究から
児童生徒の学びをつなぐために三つの提言

- ・児童生徒の思いや願いが反映される授業づくり
- ・児童生徒の実態に応じて「未来へのスケッチ」を活用
振り返りや自己評価、他者評価ができる仕組みづくり
- ・学部間の「学びの連続性」やキャリア教育の視点も
考慮した教育課程の見直し



- ・児童生徒の「〇〇したい、〇〇をやりたい」
などの思いや願い、学びたい気持ちをくみ取りながら
授業に生かす
- ・学びたい気持ちが高まる授業の工夫をする
- ・児童生徒の視点にたった授業づくりをする



- ・児童生徒の「思いや願い」を大切に、
夢中になって取り組む授業づくりをしたい



「学びたい気持ちを高め、夢中になって取り組む
姿を目指した授業づくり
ーキャリア・パスポート「未来へのスケッチ」
の活用を通してー」を設定した。

社会的背景から

学習指導要領解説 特別活動編より

- ・教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標
修正などの改善を支援し、個性を伸ばし指導へと
つなげながら、学校、家庭及び地域における学び
を自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養
うように努めなければならない。



キャリア・パスポート導入に向けた調査協力会議より

- ・教師は対話的に関わることによって、児童生徒の
成長を促し、系統的な指導に資する。



- ・キャリア・パスポートを作成し活用していくこと
が求められている。
- ・多様な実態の児童生徒がいる中でどのように学校
や家庭生活、授業に生かしていくかが課題である。



研究の目的



- ・児童生徒がどのよ
うなことに興味・
関心があるか教師
が見取る



- ・教師との対話から
児童生徒の思いや
願いを聞き取る



- ・児童生徒が学びた
い気持ちを高めら
れるような授業実
践をする



- ・「未来へのスケッチ」の
活用
- ・児童生徒が学びたい気
持ちを高め夢中になっ
て取り組む姿

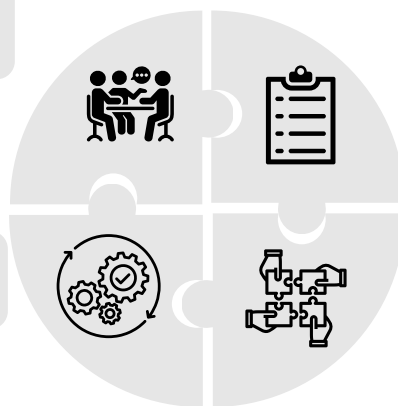
研究の内容と方法

全校縦割りでの授業デザインミー ティングの実施

児童生徒が学びたい気持ちが高まる
ような題材設定、単元の工夫、児童
生徒の変容を検討、共有する

「未来へのスケッチ」作成から教 育資料作成までのシステムの構築

「未来へのスケッチ作成」の面談
から思いや願いを聞き取り、年間
指導計画、個別の指導計画、個別
の教育支援計画作成、授業づくり
までのシステムを構築する



「未来へのスケッチ」を授業づくり へ活用する

「未来へのスケッチ」の様式や活
用方法を検討し、自らの学びを蓄
積したり、振り返ったりする

保護者と連携して取り組むための 仕組みづくり

保護者面談で活用し、保護者と共
に「未来へのスケッチ」を作りあ
げ、学校と家庭の連携を図る



小学部の授業づくり

はじめに

小学部児童の実態

学習に意欲的で、毎日繰り返していることは定着



経験不足で、自己理解や自己表現がうまくできない



目指すゴール



- ・児童の思いや願いを大切に授業づくり
- ・「未来へのスケッチ」を活用した保護者との連携
- ・「未来へのスケッチ」を授業づくり、児童との評価へ生かすなど効果的な活用方法の検討



授業づくりの実際

小学部6年 生活単元学習 「チームアップ ～わんこそばをおしえよう～」

<未来へのスケッチ>

- 「友達と仲よくしたい」
- 「いろいろなことにチャレンジしたい」
- 「発表を頑張りたい」



<授業づくりのつながり>

- ・学級目標を“チームアップ 力を合わせてがんばる”の合い言葉として設定。
- ・修学旅行の思い出“わんこそば”を5年生に紹介する会を計画。
- ・自分たちが店員役になり、毛糸の蕎麦を手作りのお椀で給仕する。
- ・児童が学級の一員として自分にできることを考え役割を果たす。
- ・友達と協力できることに気付いて活動する。



<授業者のしかけ>

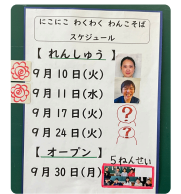
ゲストティーチャーをお客さん役に

～繰り返しの活動の中に変化をつけ、児童がわくわくする授業を目指して～



<児童の様子>

・繰り返しの活動によって見通しをもち自分から進んで取り組んだ。お客さん役のゲストティーチャーが毎時間変わること、「次は誰かな？」と期待感をもち、授業に臨んでいた。また、ゲストティーチャーに楽しんでもらうため、学級の仲間とチームアップできることを考えるための動機付けに繋がったり、授業の振り返りの際、ゲストティーチャーのアドバイスに耳を傾けたりした。



<授業者のしかけ>

児童同士の自発的なやり取りを引き出すための教材や場面の設定

～友達に働き掛けたり、友達からの働き掛けに応えたりする姿を目指して～



<児童の様子>

・エプロンのひも合わせや、のれん付けなど必然的に友達と協力する教材を用いたことで、「〇〇さん、お願いします」と友達に依頼したり、協力的な態度で応えたりする様子が見られた。わんこそばの準備や給仕の際の役割を固定した部分と役割を決めない部分をつくったことで、友達の様子をうかがって行動したり、声を掛け合ったりする児童同士の自然なやり取りが見られた。



<授業者のしかけ>

ICT機器やアプリケーションの活用

～授業の学びを実感したり、達成感を味わったりできる振り返りを目指して～



<児童の様子>

・授業の写真や動画を見返すことで、発言が難しい児童は授業のポイントに沿って発表したり、状況の把握が難しい児童は活動時の自分や友達の様子が客観的に分かり、達成感を味わったりできた。





学びたい気持ちを高め夢中になって取り組むために必要なこと

① 「未来へのスケッチ」の作成、児童との対話

児童の思いや願いを単元（題材）計画や授業づくりに反映



② 「〇年生のスケッチ」作成、実態を教師間で話し合い共有

児童の興味・関心や実態を丁寧に見取り、
児童の興味・関心の高いテーマを題材に設定



未来へのスケッチの活用

「未来へのスケッチ」のねらいや活用方法を教師間で
共通理解して運用

有効だった手立て、課題の共有

- ◎児童の思いや願いの聞き取り、家庭との連携
- △実態差への配慮、家庭との連携の仕方が曖昧

〈低学年〉



- ・興味・関心の高い題材をテーマとして設定
- ・他教科等と関連させた授業づくり



- ・時間いっぱい遊ぶ
- ・やりたいことや楽しいことを言葉や指差しで伝える

〈高学年〉

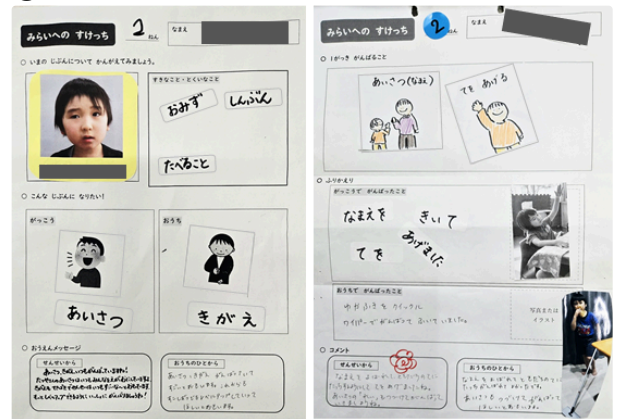


- ・児童の思いや願いをベースに、繰り返しの活動を設定
- ・繰り返しの活動でも、期待感をもてる工夫



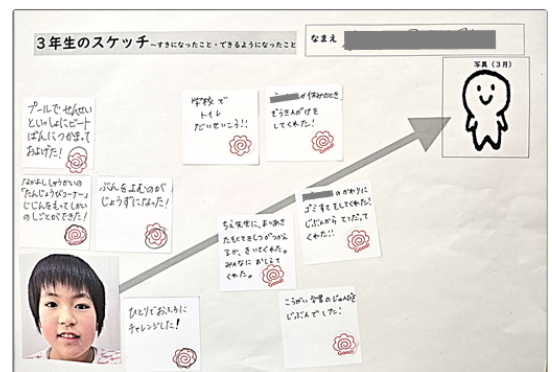
- ・自信をもち自分から準備や片付け、役割に取り組む
- ・児童同士で協力する、自発的にやり取りする

①



【未来へのスケッチ】

②



【〇年生のスケッチ
～好きなこと、できるようになったこと】



今後に向けて

○ 「未来へのスケッチ」「〇年生のスケッチ」の作成手順を可視化

- ・児童の思いや願いを反映させた授業づくり
- ・保護者との連携を明確化



○ 「未来へのスケッチ」項目の整理や検討、活用の仕方をさらに検討

- ・「未来へのスケッチ」がより活用しやすくなる工夫
（「なりたい自分」や頑張りたいことをイメージすることが難しい児童にどうイメージをもたせるか、思いや願いをどう授業づくりに生かすか）





中学部の授業づくり

はじめに

中学部生徒の実態

- ・ 経験不足から活動へのイメージをもつことが難しい
- ・ 継続して取り組まないと忘れてしまう
- ・ 達成感を得た経験が少ない
- ・ 自己肯定感が高すぎたり低すぎたりする



目指すゴール



「生徒のできたことが認められる授業実践」の積み重ね

↓
自己肯定感を高め、もっと学びたい気持ちを高めて夢中になって取り組む姿へ

- ・ 生徒の思いや願いを受け止めた授業実践 (対話を通して作成した「未来へのスケッチ」の活用)
- ・ 生徒のできるようになったことの積み重ねの視覚化 (「成長の記録」の作成と活用)



授業づくりの実際

中学部 職業・家庭科 「やってみよう！接客の仕事①」

<未来へのスケッチ>

- 「働いてお金を稼ぎたい」
- 「おいしいものが食べたい」
- 「お母さんのような役割をしたい」



<授業づくりのつながり>

- ・ 生活単元学習ではピザ屋さんの開店に向けた学習を展開。
- ・ 職業分野では、開店時に必要となる接客を主に学習し「中2 接客のポイント」を作りあげる。このポイントは、生活単元学習で実践し、お客さんからの評価を受けて、お客さんとの関わり方を改善していく。

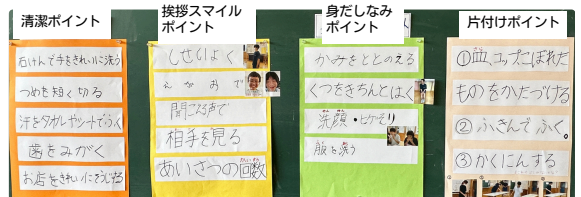


<授業者のしかけ>

学習したことを発揮できる場面の設定
～生活単元学習との学習内容の関連付け～

<生徒の様子>

- ・ 生活単元学習のピザ屋さんで、お客さんに喜んでほしい、笑顔になってほしいという気持ちをもち、接客で大切なことを考えて友達に伝えたり、自分たちで考えたポイントを活用しながら水出しのロールプレイに参加したりした。また、授業で考えたポイントを実生活の中で活用する姿も見られた。

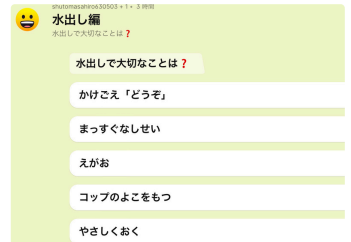
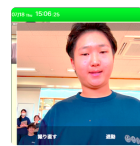


<授業者のしかけ>

ICT機器やアプリケーションの活用
～苦手の克服や思いを伝え合うために～

<生徒の様子>

- ・ 「笑顔」を意識できるように、「スマレジ・タイムカード」を使用して、スマイルチェックをした。回数を重ねる毎に、自分からタブレット端末の前に行き、笑顔を見せるようになった。また、グループの話合いでは、掲示板アプリ「Padlet」を使いグループの意見をタブレット端末で記入し、テレビに映し出されることで、それを参考にしながらロールプレイに取り組んだ。



<授業者のしかけ>

友達のよさに気付いたり、意見を伝え合ったりするグループ編成
～友達のよさや頑張り認め合う姿を目指して～

<生徒の様子>





- ・ 4～5人のグループを編成したことで、自分の考えや意見を伝えたり、ロールプレイ後に友達のよかったところを伝えたりすることができた。また、授業を重ねることで、友達のよいところに気づき、具体的に伝える姿が増えていった。

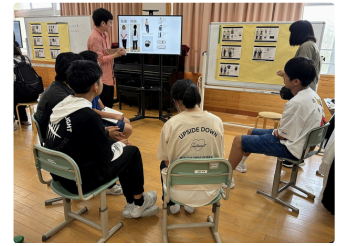


まとめ



学びたい気持ちを高め夢中になって取り組むために必要なこと


- ・年度当初から「未来へのスケッチ」を活用
- ・毎週、毎月、定期的に対話を通して個別に「未来へのスケッチ」を作成 
- ・職業・家庭科の年間指導計画に生徒の思いが反映 
- ・生徒の思い、成長を捉えた
- ・授業デザインミーティングの実施 
- ・模擬授業の実施
- ・単元の展開の広がり、実際の授業へのアイデアを得た 
- ・生徒への対応や授業の展開の見直し、教師の働き掛けが精選された




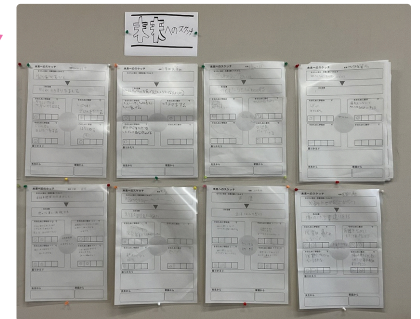
「未来へのスケッチ」の活用

<未来へのスケッチ>

○毎週、毎月振り返りや目標設定をし、使い方に慣れてくることで 

自分で目標や振り返りを考えて作成する生徒が増えた
(生徒) 週の目標を意識して活動する生徒が多くなった


生徒の思いを授業に反映させようとする意識が高まった
(教師) 目標作成時の具体的な問い掛けや提案が多くなった




【「未来へのスケッチ」を教室に掲示】


<成長の記録>

○使い方が浸透してきたことで 

できるようになったことを自分から付箋に記入し、貼ることが多くなった
(生徒)


○普段、目にしやすい箇所に掲示をすることで 

貼られたたくさんの付箋を見て嬉しそうに話すことが増えた
(生徒)

生徒との成長を共有することが増えた
(教師) 中学部一人一人の生徒の成長への気づきが大きくなった



○学部集会で、できるようになったことを発表することで 

誰にとっても心地よい気持ちを感じた
(生徒)




【「成長の記録」を目にする箇所に掲示】





今後に向けて

○「未来へのスケッチ」の保護者との連携

- ・家庭の欄へのできるようになったことの記載を増やしたい 

○「未来へのスケッチ」や「成長の記録」の作成

- ・生徒との対話、学級での話し合いは有効
- ・対話を通して作成することから、相当な時間を必要とする 

☆今後も職業・家庭科の時間に、対話を通して「未来へのスケッチ」や「成長の記録」を作成する活動を設定したい 



高等部の授業づくり

はじめに

高等部生徒の実態

- ・目標を自分事として捉え、意識しながら学校生活を送ろうとする生徒が少ない
- ・生徒の自己理解が不十分
- ・将来の見通しがもてない
- ・経験不足で集団の場で善悪を判断できない



目指すゴール



- ・「未来へのスケッチ」を活用し、家庭、寄宿舎、各教科等の担当が情報共有する時期や手段を検討して実施する
- ・「未来へのスケッチ」を基に学習内容や単元を検討する

生徒が学びたい気持ち高め、
夢中になって取り組む姿を引き出す授業実践



授業づくりの実際

高等部 生活単元学習「お役に立ち隊プロジェクト」

<未来へのスケッチ>

- 「保育士や介護士になりたい」
- 「優しい人になりたい」
- 「頼られる人になりたい」



<授業づくりのつながり>

- ・身近な人の役に立ち、感謝される経験を通して生徒一人一人がやりがいを感じて参加する設定。
- ・相手を思いやる気持ちを育み、「お役に立ち隊プロジェクト」で授業を計画。

<授業者のしかけ>



実態に応じたワークシートの活用
～意見や感想をもち、自分の言葉でまとめる姿を目指して～

<生徒の様子>



・生徒の実態に応じてワークシートを2種類準備し、自分の言葉で意見を記入できるようにした。グループでの話し合い活動の前に意見をまとめることができたことで、グループのリーダーを中心に意見交換する姿が見られた。

「クイズ」グループの発表について				
①発表はどのくらい楽しかったですか？1から5の中から気持ちに合うものを選びましょう。				
とても楽しかった	楽しかった	つまらなかった		
5	4	3	2	1
②どこが楽しかった(つまらなかった)ですか？				
5 クイズが楽しい。				

「クイズ」グループの発表について	
<よかった点> ・ハキハキしていてよかった。	<発表を楽しむ工夫> ・分かるクイズを出す ・全員が盛り上がるようなクイズ

<授業者のしかけ>



話し合い活動場面のグルーピングの工夫
～生徒が主体的に参加し、話し合いを進める姿を目指して～

<生徒の様子>



・意見や感想をワークシートにまとめた後、3つのグループに分かれて話し合い活動をした。小集団にしたことで生徒が積極的に発言したり、友達の意見に耳を傾けたりする姿が見られた。また、友達の意見を引き出したり、まとめたりすることをねらう生徒を各グループに配置したことで、教師の支援を減らし、生徒たちが自主的に話し合いを進めることにつながった。



<授業者のしかけ>



「キーワード」でまとめる
～話し合いを深めるために～

<生徒の様子>



・グループで出た意見を「キーワード」でまとめ、他のグループに提案する活動を設定した。「よかった点」「改善点」について出た意見を箇条書きするのではなく、自分の意見と友達の意見の共通点や違いに気づき、具体的な意見になるようにまとめることができた。

ダンスグループの発表について	キーワード
<よかったところ> ・振り付け ダンス ・みんな笑顔 ソロパート ・見ていて楽しい ・振りがあっていい	振りつけが良かった 楽しかった
<改善点> ・動きを合わせるとよい ・リズムにのれていない ・手が下がっていた ・笑顔、アピールがほしい	重きを合わせる アピール

まとめ



学びたい気持ちを高め夢中になって取り組むために必要なこと

- 生徒の思いや願いをしっかりキャッチ！
 - 「未来へのスケッチ」作成では、丁寧な面談を実施
 - 生徒の思いや願いを把握した上で、教科横断的に年間指導計画を作成
- 思いや願いを取り入れた学習を実施！
 - 生徒が主体的に学べるよう単元計画を工夫
 - 同じテーマの学習活動の積み重ね
- 自己表現を大切にしたい学びの場を設定
 - ワークシートを活用し、意見や感想をもち、自分の言葉で表現する
- 協働的な学びの場を設定
 - 相手を尊重しつつ、自分の意見を伝えながら話し合い活動を深める
 - 話し合いを「キーワード」でまとめ、みんなで共有する



▶ 生徒が学習課題を自分事として捉え、主体的に学ぶ姿が引き出せた



「未来へのスケッチ」の活用



- 自己理解を深める準備！
 - 「人生の木」(ポートフォリオ)を作成
- 未来へのスケッチ記入の仕方をブラッシュアップ！
 - 状態目標、結果目標、行動目標の3つに整理し記入
- 支援者みんなで共有！評価コメント記入
 - 担任・作業担当・寄宿舍・保護者と連携

「状態目標」「結果目標」「行動目標」とは



空想後の目標する事・事
 丁寧に仕事をしたいと書きたい
 2 学期 未来へのスケッチ
 2年 1組 名前

<目標>
 人の話を最後まで集中して聞く
 よて見せたい、目録を一緒に見たい
 勝手に言えず どこで見てもいいかな？

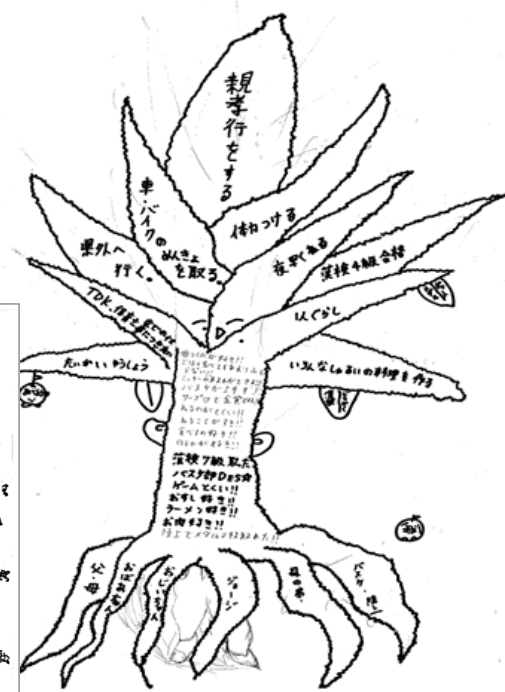
<状態目標>
 集中 主体的に 自分から！

<結果目標>
 自由がいっぱいできるようにしたい、みんなに話したい

<行動目標>
 授業中に話を聞いたり、先生と話をしたりする
 友達と話をしたり、先生と話をしたりする
 先生の話の話を聞いて、先生の話の話を聞いて

<自己理解>
 先生の話の話を聞いて、先生の話の話を聞いて
 先生の話の話を聞いて、先生の話の話を聞いて

<支援者からのコメント>
 先生の話の話を聞いて、先生の話の話を聞いて
 先生の話の話を聞いて、先生の話の話を聞いて



【生徒が描いた「人生の木」】

- ▶ 教師が生徒と向き合い、生徒の実態把握を深めることができた
- ▶ 教師間や保護者との連携を強化することができた



今後に向けて

- 生徒が目標を意識する工夫
 - ・生徒が自己理解を深められるよう計画的、効率的に「未来へのスケッチ」を活用する
 - ・生徒が主体的に課題解決にむかえるよう、評価の時期、方法を検討する
- 寄宿舍との連携
 - ・学校と寄宿舍の連携の強化
 - 面談・情報共有アプリケーションの活用





寄宿舎の研究

はじめに

寄宿舎生の実態

- ・ 経験不足による自信のなさから消極的
- ・ 不安や困り感などを言葉で伝えることが難しい
- ・ 生活経験の積み重ね、職員や友達とのやりとりから適切な関わり方、伝え方を身に付けつつある
- ・ 集団生活を通して前向きに取り組むようになってきた



目指すゴール



- ・ 生徒の思いを大切にしながら勉強会等の生活指導を実施
- ・ 「現在学んでいること」「自分の将来」のつながりを考え、新しい知識を得る楽しさ、興味・関心の拡充
- ・ 「おおぞらシート」の改善や活用を行い、学部と連携して作成するシステムを整える
- ・ 様々な働き方や暮らし方があることを理解し、自分の目標実現に向けて行動、振り返って改善しようとする生徒の姿を目指す

生活指導の実際

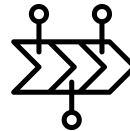
キャリアパスポート（「未来へのスケッチ」と「おおぞらシート」）を活用した生活指導

<様式の見直し>

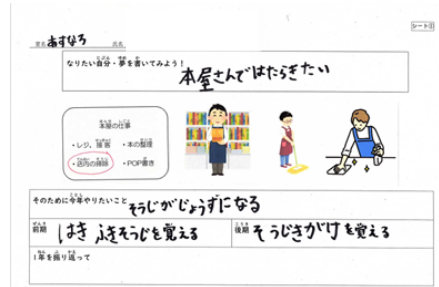
- ・ 学びの履歴を視覚的に分かりやすくするための内容の精選
- ・ 生徒に応じて写真や図などを多く用いた記録

<活用の工夫>

- ・ 生徒の思いを受け止める
- ・ 生徒の気持ちに寄り添った話合い
- ・ 目標設定に向けた話合いの過程の記入
- ・ 日々の生活の中での目標に関連した話題をメモする



- ◎自分の思いを言葉にできた
- ◎具体的な目標を考えた
- ◎目標設定に向けた思考のプロセスを記入した
- ◎時系列で目標設定の流れや過程を振り返った
- ◎生徒が主体となった話合いが行われた



生徒の思いや願いを大切にしながら勉強会の計画・実践・振り返り

<意欲を引き出す工夫>

- ・ 選択制、小グループで実施
- ・ 個別のニーズ・興味・関心に基づいた内容
- ・ 生徒の言葉や反応をみながらのやりとり
- ・ 生徒が興味をもっている、知りたいと思っている内容
- ・ 体験的な活動、視覚的に工夫した教材の活用
- ・ 生徒が手本を見せたり、教え合ったりする場面の設定

洗顔・整髪勉強会

<意欲が高まったポイント>

- ・ 器具を使った肌の水分量の確認
- ・ 職員がモデルの動画の活用

- ◎保湿剤について尋ねて購入し、入浴後の保湿が習慣になった

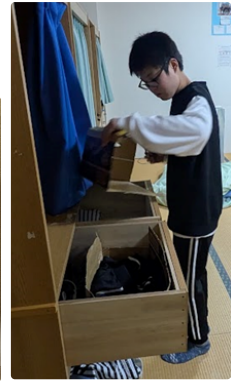


整理整頓勉強会

<意欲が高まったポイント>

- ・互いに収納方法を紹介する場面
- ・実際の収納グッズや引き出しを再現した物の活用

◎自分で仕切りを作り、引き出しの収納を工夫するようになった



まとめ

学びたい気持ちを高め、自身の生活をより良くしようとする姿を目指すために必要なこと

- ・生徒の思いや願いを肯定的に捉え、言葉にすることが難しい生徒や経験不足により選べない生徒には、本人の思いをくみ取った選択肢を提示する。
- ・生活の中で、自分で選択する場面を多くした。



- ◎生徒の思いに寄り添うことが意欲の高まりにつながった。
- ・勉強会を個別のニーズや興味・関心に基づいて計画し、生徒が選んで参加できるようにし、小グループで実施した。
- ・生徒の反応を見て、やりとりしながら進めるようになった。



- ◎主体的に取り組んだり、工夫したりする姿、学んだことを生活に生かす様子が見られるようになった。



「未来へのスケッチ」と「おおぞらシート」の活用

- ・学部と「未来へのスケッチ」と「おおぞらシート」の共有、面談の回数を増やすなどつながりをもった指導をした。
- ・生徒との対話から、目標設定や指導内容の検討をした。
- ・おおぞらシートの様式を見直し、学びの履歴を視覚的に分かりやすくするために内容を精選し、生徒に応じて写真や図などを多く用いて記入するようにした。

◎目標達成のために行うことを具体的にイメージできる生徒が増えた。

◎自分事として前向きに取り組む、行ったことを自分の言葉で伝える生徒が増えた。



今後に向けて

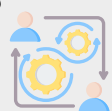
○「未来へのスケッチ」と「おおぞらシート」のさらなる活用

- ・これまでの取組で生徒が主体的に取り組む姿を引き出すことができた日々の積み重ねから「自身の生活をよりよくする姿勢」につなげていきたい



○保護者や学部との連携・情報共有

- ・「未来へのスケッチ」の「暮らす」項目に寄宿舍としてどうつながっていくか各学部と検討していきたい
- ・学部や保護者と連携し、生徒が経験したこと、できるようになったことをアプリ等でタイムリーに共有し、生徒の意欲を引き出し、生活に生かせる生活力を育てたい



多様な実態の生徒への入舎対応や寄宿舍機能を効果的に活用した指導につなげていきたい



研究のまとめ

研究の成果



学びたい気持ちを高め夢中になって取り組むためのポイント

小学部 低学年

教師が児童の興味・関心の高い題材を設定する
遊びや生活単元学習、国語、算数など、他教科等と関連させながら授業を行う



小学部 高学年

児童の思いや願いを土台に繰り返しの活動の設定をする
児童が活躍する場面の設定、ゲストティーチャーの活用などで期待感をもたせる工夫をする



中学部

「未来へのスケッチ」の作成で生徒と個別に面談を定期的に行う
変化する生徒の思いや成長を捉え、授業づくりに生徒の思いや願いを反映する



高等部

生徒が「未来へのスケッチ」に記述した思いや願いを取り入れた学習を展開する
課題を自分事として捉えて、主体的に解決しようとする姿につなげる



寄宿舎

生徒の思いや願いを肯定的に捉え、言葉にすることが難しい、経験不足により選べない
生徒には、本人の思いや願いに寄り添った選択肢を提示する



「未来へのスケッチ」の活用



児童の好きなことや得意なことを教師が見取り、付箋紙に記入して視覚化する



「なりたい自分」をイメージしやすいように、職業や活動のイラストを使う



本校のキャリア教育全体計画に記載された「卒業までに身に付けたい力」のイラストを使用する



生徒面談を定期的に行い、月の目標の振り返りや評価を繰り返し、自己肯定感の高まりにつなげる



生徒が目標設定をする際に3つの目標（状態目標・行動目標・結果目標）から設定する

今後に向けて

01

「未来へのスケッチ」作成の 手順やサイクルの可視化

- ・個別の教育支援計画と「未来へのスケッチ」の思いや願いの共有
- ・各学部の「未来へのスケッチ」の作成手順、生徒や保護者との面談時期などを可視化

学校全体としての「未来へのスケッチ」と教育資料との関連を可視化しシステムを再構築

02

保護者や寄宿舎との連携強化

- ・「未来へのスケッチ」の保護者コメント欄に記入をしてもらい情報共有
- ・保護者アンケートや保護者面談での内容を整理
- ・「未来へのスケッチ」と寄宿舎の「おぞらシート」の情報共有アプリ活用

03

児童生徒によるさらなる活用

- ・「未来へのスケッチ」の評価時期や回数、面談の回数など再検討
- ・実態に合わせた様式の再検討

生徒自身が学びたい気持ちを高め、達成感、やりがい、自己肯定感を高められるように工夫をする



- ・「未来へのスケッチ」を日常的に活用
- ・児童生徒との対話を重視し、思いや願いの聞き取り
- ・保護者との連携を通して児童生徒の成長を共有

子ども中心の授業、教師の専門性の向上へ

秋田県立ゆり支援学校研究紀要「研究ゆり」第26号 別冊

印刷・発行 令和7年3月

発行 秋田県立ゆり支援学校

〒015-0885 秋田県由利本荘市水林456-3

TEL 0184-27-2630

FAX0184-22-8706

研究紀要本文は本校HPを御覧ください。

本校HP

